

新座市をキャンパスに！✦（プラス）となる人づくり、街づくり

2018.11.9

Vol.16

十文字学園女子大学
 地域連携推進機構
 (COCセンター)

COC ニュースレター

研究活動報告

本学で取り組んでいるCOC研究プロジェクトについてお話をうかがいました



地域志向科目に関する教材開発

◇代表者：石野榮一（メディアコミュニケーション学科教授）

◇プロジェクト構成員：安達一寿（メディアコミュニケーション学科教授）、狩野浩二（児童教育学科教授）、佐藤陽（人間福祉学科教授）、星野敦子（児童教育学科教授）、星野祐子（文芸文化学科准教授）、須田健治（客員教授）、名塚清（地域連携推進機構）

◆ポイント◆

- 新座を学ぶテキスト
- 学生自ら取材し、記事を作成

新座のこと、もっと知ってほしい！

本学の所在地である新座市の基礎的な知識を身に付けてほしいという目的のもと、学習テキスト『いいね！にいざ』を作成しています。新座市の歴史や自然を紹介するほか、本学の地域貢献活動の事例や、学生によるインタビュー記事も掲載しています。

これまで新座市長や同市職員、JAなど地域団体の方々に、質問項目を事前に準備しインタビューを行いました。この取材により、学生は地域の方と接し、新座の知見を深める機会になるとともに、相手の話を聞き、それを文章にまとめる力が身に付きました。

作成した『いいね！にいざ』は毎年本学の新生に配布し、授業で活用しています。また、新座市の新人職員研修でも活用していただいています。

5冊目となる次号では新座のみにとどまらず、朝霞・志木・和光の各市長にもインタビューをし、本学との地域連携について伺ったお話を掲載します。ほかにも、5年間本学が取り組んできたCOC研究活動をいくつか紹介し、今後の地域連携活動につながるようなロールモデルを提示する予定です。



並木新座市長に笑顔でインタビューする学生



地域における子育て支援の中核的な役割を担う現職保育者育成に繋がる発達相談モデルの構築

◇代表者：権明愛（幼児教育学科講師）

◇プロジェクト構成員：齋藤忍（児童教育学科准教授）、山田陽子（幼児教育学科教授）

◆ポイント◆

- 地域のモデル園と連携
- 互いの知識を提供

大学と地域が手を取って保育者育成

大学と現職保育者が、子どもの発達相談支援（療育）に関する知識・経験を提供しあうことで、在学生と地域の現職保育者が成長していくことを目指します。研究開始年度に、新座市の幼稚園と保育園にひとつずつモデル園を設置し、各園の保育者と連携しながら様々な事業を継続して行っています。

現職保育者を対象にした本学の教員による講演や、本学学生向けの講義の開催、学生がモデル園で発達相談対象児と接するなど、双方で学びの機会を共有しています。また、外部講師を招いた「実践検討会」をひらき、モデル園、市の療育施設、本学教員・学生が出席し、現場での実際の支援方法に理解を深めました。こうした経験を経て、学生は発達相談に対する意識が高まるとともに、将来現場で子どもと関わる際に必要な力を身に付けています。

初年度から築いてきた地域との信頼関係を基に、今後も連携を続けながら、長期的な視点を持って活動を積み上げていきます。



「発達が気になる子どものコミュニケーションの支援」をテーマに講演する齋藤忍先生

園田学園女子大学・園田学園女子大学短期大学部と大学間連携に関する協定を締結

8月1日(水)、本学は、園田学園女子大学・園田学園女子大学短期大学部(兵庫県尼崎市)と大学間連携に関する協定を締結しました。本学と園田学園女子大学は、地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)に採択された女子大学として、2016年度以降、情報交換を行いながら交流を深めてきました。

本協定は両大学の教育資源を活用しながら、教育研究や人材育成、地域社会への貢献等に関する大学間の連携をさらに推進し、今後も発展させていくことを目的としています。



協定書を掲げる、川島明子学長(園田学園女子大学・園田学園女子大学短期大学部)と志村二三夫学長

“とちぎの食”を学生が体験

9月28日(金)、本学が参加するCOC+事業企画のひとつである「とちぎの食! ファンづくりバスツアー」に、食物栄養学科4年生の2人が参加しました。ジュース製造会社のカゴメ(株)那須工場や、農産物を販売する那須町の道の駅など、栃木県内の食に関する施設5カ所を回りました。

工場や牧場を見学しながら商品開発の背景等を知るこの企画は、学生にとっても、食品と地域の関わり方などを学ぶ機会となりました。

公開講座「おいしいものは美しい」開催

10月13日(土)、料理研究家で本学特別招聘教授の土井善晴氏による講演会「【料理の美学】おいしいものは美しい」が開催されました。本講座は土井教授による講演と、本学教員2人を交えた鼎談の2部構成。一汁一菜、和食の美についてなど料理に関する様々な視点からお話いただき、参加者からは「料理に対する意識が変わった」といった感想が寄せられました。



近隣地域のほか、遠方からも参加があり満席の会場

わたしたちにできること ~ボラセンスタッフ達が募金活動~

10月17日(水)~31日(水)のうち計8日間、学内でボランティアセンターの学生スタッフと有志の学生達が募金活動を実施しました。西日本で大きな被害を出した“平成30年7月豪雨”に対し、「現地に行けなくてもできること」を話し合い、募金活動の実施を決定しました。

また、ボランティア数の減少や被災地の現状を写真とともにパネルに掲示し、伝えました。

学生や教職員のほか、来校された地域の方々にもご協力いただき、合計31,382円が集まりました。こちらは義援金として日本赤十字社を通じ、被災地に送られます。



自分達で作った募金箱を手に大きな声で呼びかけ

ご協力ありがとうございます!



公開講座のご案内

- 12/1(土) 「新学習指導要領における特別支援教育の展望
—通常学級におけるすべての子どもの学びを保障するために—
(14:00~16:30/9417教室)
- 1/26(土) 「女性のポテンシャルで叶える六次産業化と地域づくり」
(13:30~15:00/9417教室)
- 2/16(土) 【鍛えよう! 子どもの心と体シリーズ Part3】
「自閉スペクトラム症児のコミュニケーション
—実証研究からみえてきた理解と支援—」
(15:00~17:00/9417教室)

編集後記

今回、研究プロジェクトのお話をうかがう中で印象に残ったのが「地域との信頼関係を築くことが大事」という先生の言葉です。今まで続けてきた活動があって今後につながっていくのだと、改めて感じた取材でした。